

英語研修でロングステイ in コタキナバル

日程：2006年9月4日～10月2日 1ヶ月間

リーダー：島田貢代

参加者：10名

費用：約23万円 + 食費

英語研修

川村千秋（神戸市）

ずいぶん長い間英会話の勉強をしているのに、自分の思いを英語にすることや会話となると緊張してことばが出てこない。話せるだけの時間は十分費やしたはずなのに、思うように話せないもどかしさ。きっと1カ月間英語の環境の中で生活すれば自然と話せるようになるのではと考え、どっぷり英語学習に浸かった生活を頭に描き、英語研修に参加した。

コタキナバル空港に着き、日本以上のむし暑さに驚き、迎えにきた旅行会社ガイドのはじめて聞く英語のアクセントにびっくり。これはマレーシア英語？日本でテレビやラジオから聞くはっきりときれいに発音された英語に慣れている耳には異質に感じる。

～授業内容～

授業は、宿舎のマリナコート（リゾートコンドミニアム）から歩いて20分、ロングステイホリデイズのビルの教室で行われた。

教師はMs.セリーナ（マレーシア人、牧師）とMr.マーク（オーストラリア人）、アシスタントの若い姉妹イブリンとリディア（中国系）の4人。



教室にて

初日、マレーシアを紹介する観光ビデオを見る。視聴後Ms.セリーナからどのくらい聞き取れたか聞かれる。そして「最後の日はもっと聞き取れるようになっていますよ」と言われる。

授業は週4日、1日4時間（午前、午後各2時間）テキストに沿って進められる。その他にホテル・ショッピングモール・市場での実践的な練習、ゲーム、図

書館へ行き借りた本の概要、感想を書くホームワーク等。先生の話す英語が理解できない時は、アシスタント2人がわかり易く説明してくれる。それに、素直でかわいい彼女たちと授業中や昼食時にするおしゃべりがいい英会話の勉強になる。だが、彼女たちの英語はかなり聞き取りにくい。1日4時間の授業は長すぎるという声もあった。テキストに沿った授業ではなく、何かのテーマについて話し合ったり、自由に意見を云ったりと、会話を中心としたレッスンをもっと多くとって欲しかった。

～実践で会話～

勉強以外にも、全員参加の小旅行2回、ロマンティックな水上コテージに泊まったガヤリゾート、マヌカン島ではパラセーリングを初体験。キナバル公園でのキャノピーウオーク、地上41m長さ157mの人ひとりがやっと通れる不安定な細いつり橋、笑っているつもりの顔がみな引きつっている。

個人では、最北のクダットヘタクシーをチャーターし、道路をゆうゆうと歩く牛を眺め、市場に寄り、果実の樹を眺めと、生の生活に触れた往復ドライブ。北ボルネオ鉄道のレトロな蒸気機関車にも乗った。

3週間の英語研修も終わり、自由行動となった最後の1週間は、のんびりと町を探索。町のいたる所にフードコートがある。土地の人は朝からそこで食事をしている。家で作るより外食の方が安くつくらしい。大きなパイアが1つ60円、普通のパン1つ30円、食事1回150円前後、ちょっと豪華版で600円位。見るのも食べるのも初めてのめずらしい果物や食べ物もたくさんあった。どれも信じられないくらい安く、そしておいしい。買物も大きなショッピングモールからフィリピンマーケット等、大小さまざまな楽しい店がいたる所にある。電卓を叩き合っただけの値段交渉もしっかり身につけた。

毎朝、何種類ものトロピカルフルーツ、ライムを搾りかけた温野菜、パン、ココナッツケーキ、生ジュース等、ヘルシーな朝食をたっぷり摂り、授業は10時から始まるのに9時前から出かけ、途中あちこちの面白そうな店に立ち寄りひやかしながら登校する。帰りもマーケットで果物や野菜を買ったり、仕立屋に寄ってスカートをオーダーしたり、ショッピングモールで写真の現像を頼んだり、寄り道しながらマリナコートに帰る。ひと休みし、また誘い合って夕食に出かける。おかげで日常生活に必要な英語はスムーズに口から出るようになる。最終日、ふたたびマレーシアの観光ビデオを見る。自然と耳に入ってくるからふしぎ、こんなに聞き取りやすい英語だったのかと....。

そういうわけで英語研修を目的に来た筈なのに、あまりにも楽しい寄り道が多く、英語の成果はそこそこだったが、楽しい仲間に出会えたことがいちばんの成果か。

My English is improving but I still have a long way.

英語研修の合い間に

今村美代子（さいたま市）

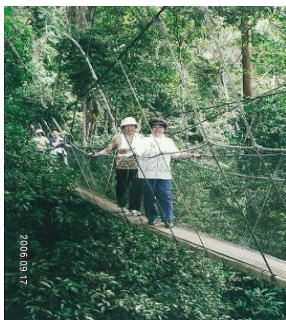
ボルネオ島にあるコタキナバルは、南北1キロメートル程で、歩いて廻ることもできる。半島マレーシアに比べ、中国系と先住民族の割合が大きい。そのため、社会のさまざまな点で異なる社会の融合が見られる。それぞれの民族が独自の文化を持ち、それを守りつつ他の民族の存在を認め合い、共存している。例えば街を歩くと、マレー料理、中国料理、インド料理の店が隣同士で並んで店を開いているといった具合である。

そんな街で、わたし達10人は、英会話の勉強をしながら、泣いたり笑ったりの1カ月を過ごした。

わたし達の生活の場は、マリナコートの3部屋である。1部屋を3人のルームメイトで使用するが、中には3つの個室があるので、プライバシーも守られ、落ち着いて生活することができた。

～週末の小旅行～

1週目に行ったガヤ島・マヌカン島は、まさに絵がきで見た南の島のリゾートという佇まいだ。水上のコテージは風通しも眺めもよい。水も澄んで泳いでいる魚や海底の砂や石までがはっきり見える。あの「ニモ」もいた。インストラクターが採ってきた「なまこ」は、幅10センチ長さ30センチというびっくりする大きさだ。マヌカン島の海洋展示ミュージアムには、ウミヘビ、カブトガニなどの剥製や鯨・鯨の骨、ウミガメの産卵の写真など、興味深い物が多数展示されている。係の青年は、友人の日本人に教わったという日本語を交えながら説明してくれた。



キャノピーウオーク

2週目のキナバル公園では、植物園やジャングルトレッキングでたくさんの種類のランやシナモンの木、ポインセチアの木などを見た。

キャノピーウオークにも挑戦した。橋は狭く、揺れるので怖い。下を見ずにやっとの思いで渡り終えた。ポー

リン温泉にはプールのような大きな露天風呂がいくつ

もあったが、わたし達は個室（内風呂がある離れ屋風のコテージ）を借りた。定員は4人、私たちは10人。円形の風呂は定員オーバーで入るにも出るにも、きつくて思うようにいかない。女性同士ということで、水着を着ない人もいたので、写真を撮るときは大騒ぎ。爆笑の連続だった。帰路、思いがけずラフレシアの花を見ることができたのは本当に幸運だった。

3週目の土曜日は、コタキナバルから車で2時間のクリアス川で、ホテルとテングザルの鑑賞をした。マングローブの木々が迫る広い川を進むと、船頭さんの指さす遙かかなたに木から木へ飛ぶテングザルが見えた。遠く離れているので肝心の長い鼻がはっきり見えない。双眼鏡を持ってくればよかった。夕闇が迫り、川の上はたくさんさんの船が行き交うようになった。衝突を避けるためか、舟の先に灯りをつけている。そのうち前方の暗闇の中にクリスマスの電飾のように輝く樹が見えた。日本の蛍の儂い光と違って、強くエネルギーギッシュな蛍の光り輝く樹が見える。こんな風景は二度と見られないと思うと、感無量だった。

～教会で～

英語のレッスンが終わった週末の日曜日に、セリーナ先生が牧師をしている教会に招待された。教会といっても普通の建物で、礼拝の内容や進行もユニーク。若い人の歌や踊りもあるなど、これまで抱いていたイメージと全く違う。わたし達もスクリーンの歌詞を見ながら歌ったり手拍子をとったりした。子ども達に教えた折り紙はとても人気があって、大人も一緒に鶴や箱や奴さん（現地の人は着物と言っていた）等を折った。小さな事だが、これも国際交流だ。

振り返って・・・あれこれ

街を歩いていてふと気がつく、ここが外国だと言うことを忘れていた。アジア人同士で顔や体型が似ているからとも言えるが、それだけではない親しみを感じる。それは人々の表情の素朴さや、わたし達に向ける優しい眼差しのためか。一歩街から出ると、そこには昔の日本にタイムスリップしたような風景が広がっている。どこかで見たような景色に、幼い子どもに戻った気がした。

マーケットでの買い物も、急ぎの旅行では味わえない楽しみだ。この旅行の目的である英会話を実際に試す場にもなった。部屋の掃除に来てくれた1人のメイドさんは、ベビーシッターをしながらテレビの子ども番組の字幕で英語を覚えた事、英語が話せたからホテルに勤められたこと、特に話すことが大切と話してくれた。1日に最低1人には話しかけるようにしていると話していた。わたしも積極的にレッスンに励まなければと思った。